

第6節 平成30年度 光構内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査

1. 基幹・環境整備(ブロック塀対策)工事に伴う立会調査

調査地区 光構内

調査面積 約7.3㎡

調査期間 平成31年3月8日

調査担当 田畑直彦

調査結果

教育学部附属光小学校でブロック塀対策として、既設のブロック塀を撤去して新たにメッシュフェンスを新設する工事が計画された。上記に伴う地下掘削は支柱を設置する20箇所予定されており、立会調査を実施することになった(平成30年度第2回埋蔵文化財資料館専門委員会(11月22日(木)開催:メール審議)にて承認)。

調査区附近の敷地外縁は校庭よりも50~60cm程度高く、植樹がある。基礎部分の掘削は現地表下約40~50cmまでであったが、調査の結果、全ての地点で造成土の範囲内であり、埋蔵文化財に支障はなかった。

今回の工事では埋蔵文化財の保護に支障は生じなかったが、小学校校庭では遺物包含層や遺構が確認されていることから、引き続き、慎重な対応が必要である。

【註】

- 1) 河村吉行(1992)「光構内教育学部附属光小学校運動場改修工事に伴う発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X』,山口
田畑直彦(2022)「教育学部附属光小・中学校上水道(給水管)改修工事に伴う試掘・立会調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報IX』,山口

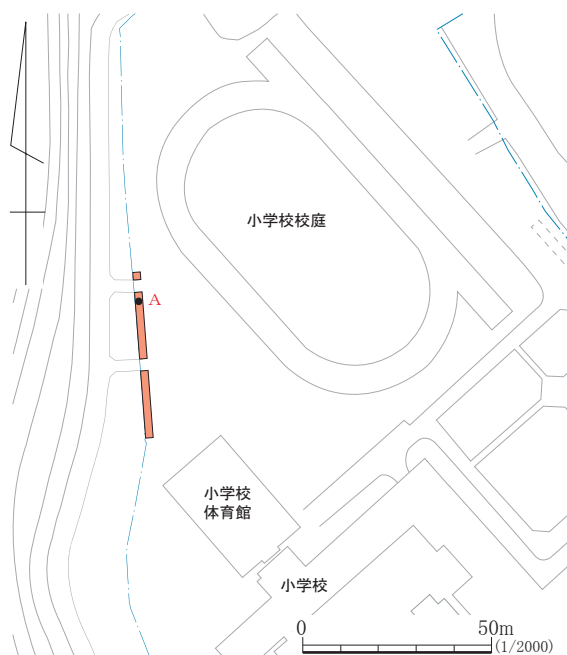


図 74 調査区位置図



写真 245 調査区全景 (南西から)



写真 246 A地点土層断面 (西から)